



USBメモリの付属ソフトについて

データコンテンツガード

ハイパーコンテンツガード

ハイパープラス

※製品によって含まれていない付属ソフトがあります。

※各付属ソフトの詳しい説明はPDFリファレンスマニュアルをご参照下さい。



- Data Contents Guard ○
- Hyper Contents Guard ○
- Hyper Plus ○

USB内臓ビューワソフト

.....
アプリが入っていない？全てのPCで再生できる内臓ビューワ



クリックビュー ClickView

USB内臓のコンテンツビューワソフト

USBメモリ内のコンテンツを表示するときには、トラブル防止や安全性の観点からクリックビューでの表示を推奨しています。

クリックビューで
再生できるファイル形式

- PDF
- MP 4／WMV
- MP 3
- JPEG／PNG

場所

- 保護領域／ルート

No.	Category	Title	Type
1	Document	D0002021137_00000_V_000	Movie
2	Document	コピーガードUSBメモリ/緊急説明(要印刷)	Document
3	Document	付属ソフトについて(要印刷)	Document
4	Illustration1	illustration1000	Image
5	Illustration1	illustration1001	Image
6	Illustration1	illustration1002	Image
7	Illustration1	illustration1003	Image
8	Illustration1	illustration1004	Image
9	Illustration1	illustration1005	Image
10	Illustration1	illustration1006	Image
11	Illustration1	illustration1007	Image
12	Illustration1	illustration1008	Image
13	Illustration1	illustration1009	Image

コピーガードUSBは許可ソフトウェア設定で事前にUSBへアクセスできるソフトの登録が必要です。クリックビューは内臓ビューワは、設定をしなくてもコンテンツの表示ができます。

- 自動メニュー（手動設定対応）
- USB内臓ビューワなので、どのパソコンでも表示ができる
- 保護設定を最低限にできる。

2

クリックビューの機能

ダブルクリックで起動すると自動でメニューを作成します。

クリックすると表示します。

フォルダを非表示にした場合、利用者がファイルをクリックできないのでクリックビューから起動します。

※見えないフォルダからの起動は他にランチャーソフトの利用できます。

メニュー右下の取り出しボタン▼で安全な取り外しができます。

自動以外に表示情報を手動で設定もできます。

詳しくはPDFマニュアル、または製品サポートに確認して下さい。

Acrobatの不具合とトラブル軽減

PDFは印刷を許可するとPDF生成ができます。

クリックビューでは印刷機能がありませんので印刷禁止を行わなくても印刷による複製を防止できます。

また、AcrobatやMicrosoft Edge はUSBをアクセスすると画面を閉じて実際には終了しておらず、一定時間USBの利用を継続しUSBの取り外しでエラーが表示されます。

クリックビューを使う事でこれらのトラブルが発生しません。

Data Contents Guard	○
Hyper Contents Guard	○
Hyper Plus	○

USB保護機能を設定する

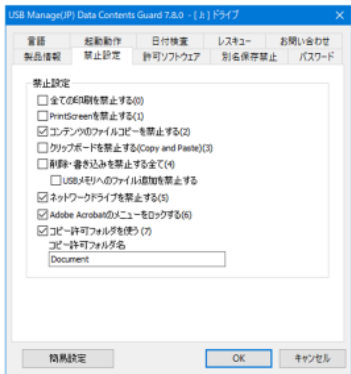
コピー禁止設定、変更、解除



管理ソフトUSBマネージ UsbManage.exe

USBの保護機能を設定する。

管理ソフトはUSBに付属していません。保守ソフトUsbSettingのメニューよりダウンロードします。管理パスワードを設定するとダウンロードメニューは非表示になります。



- ・ 利用するには設定されている管理パスワードが必要です。初期値” admin”
- ・ ファイルコピー禁止、印刷禁止、画面キャプチャー禁止、削除禁止など各種設定を行います。
- ・ 管理ソフトは、コピーガードが有効になっていると設定ができません。非保護領域を表示した状態（UsbStartが見える状態）で設定を行います。
- ・ 管理ソフトは各製品共通です。設定する本体USBの製品種類によって設定できる項目が異なります。

管理ソフトの便利機能

- ・ 2本差しの状態で設定やシステムファイルを転送する機能（USBバージョンの統一）
- ・ お問い合わせタブ USBの設定情報を提出し、設定間違いのチェックやUSBのサポートを受ける
- ・ 言語設定機能（英語、日本語、中国語、韓国語、自動表示）
- ・ 製品情報タブ 自社の名前や保存されているコンテンツ名を登録・表示させる。
- ・ 自動更新の有効／無効切り替え
- ・ 簡易設定 設定ウィザードの表示
- ・ ロストパスワード機能 登録されているメールアドレスにパスワードをお知らせ
- ・ USBの破損検査 CHKDSK(チェックディスク)の実行
- ・ ファイルコピー禁止など各種保護設定

使い方

- ・ 設定するUSBメモリを先に挿入してデスクトップなどからUsbManageを起動します。設定されている管理パスワードを入力して設定画面を表示させます。
- ・ 自動起動UsbQuickStartがセットアップされているパソコンでは利用できません。（UsbQuickStartを自動でアンインストールします。必要な場合は再セットアップして下さい。）

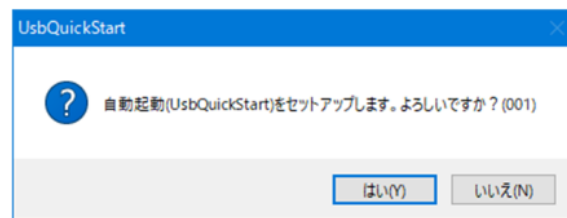
制限アカウントの利用／USBの自動起動

.....



USBクイックスタート UsbQuickStart

①USBの自動起動 ②制限アカウントでの利用



メリット

- USBを挿入すると自動でUsbStartを実行します。
 - 本USBメモリは管理者実行権限が必要です。UsbQuickStartをセットアップすると制限アカウントで利用できるようになります。
- ※UsbQuickStartをセットアップする場合は、制限アカウントではできません。初回のみ管理者権限で実行して下さい。

制限アカウント

新規ソフトンのセットアップや削除が制限されています。USB付属のUsbStartは管理者実行権限が必要です。UsbQuickStartを管理者実行権でセットアップされている場合、UsbStartの実行が許可されます。

4

UsbQuickStartのアンインストール

UsbQuickStartはPCにセットアップされるソフトです。利用する場合は、個々のPCにセットアップします。ダブルクリックでUsbQuickStartを実行するとセットアップされます。
もう一度実行するとアンインストールします。

ネットワークからセットアップする場合でメッセージ不要にする場合は/Nオプションを付けて起動します。
UsbQuickStart.exe /N

UsbQuickStartの注意

USBを設定するPCにはUsbQuickStartを設定しないで下さい。
管理ソフトUsbManangeは自動起動が設定されていると利用できません。UsbQuickStartがセットアップされているPCで管理ソフトUsbManangeを起動するとUsbQuickStartが自動でアンインストールされます。
※必要な場合は再度UsbQuickStartをセットアップして下さい。

コピーガードの解除コード設定



USBクイックスタート_Admin

UsbQuickStart_Admin.exe

①USBの自動起動 ②制限アカウントでの利用 ③解除コードの設定

メリット

・PCにコピーガードを解除する解除コードを設定できます。
他の機能はUsbQuickStart.exeと同じです。

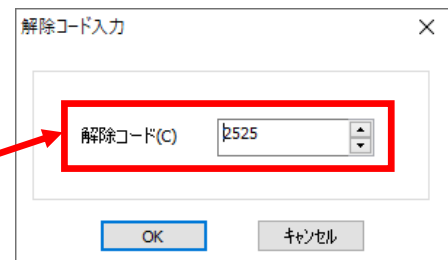
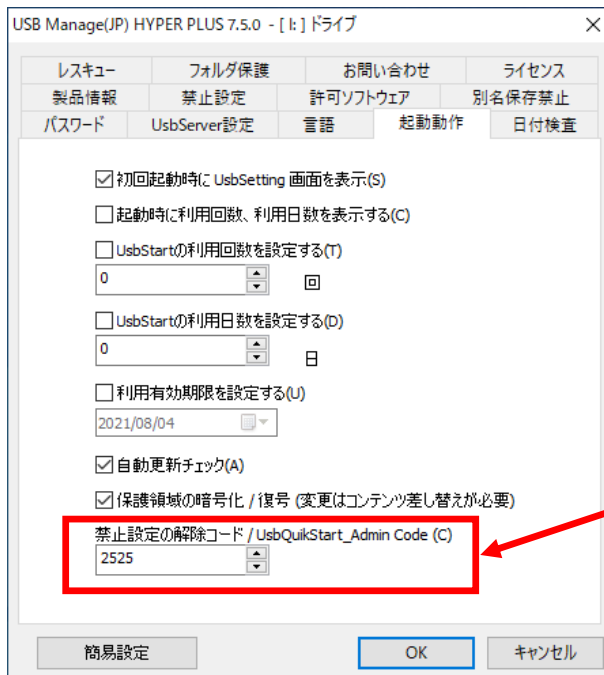
解除コードとは

HyperPlusには、コピーガードを解除できるコードを設定できます。
PC側に設定されている解除コードとUSBに設定される解除コードが一致していると各種設定されているコピーガードが解除できます。

場所

・非保護領域/setupフォルダ

5



解除コードはHyper Plusのみ設定できます。

Data Contents Guard	○
Hyper Contents Guard	○
Hyper Plus	○

保護→非保護

.....



保護領域／TOOLフォルダ

USBバック UsbBack.exe

保護領域から非保護領域へ戻る
USB設定に便利なツール

メリット

USBの取り外しと再挿入を連続で行います。
USBの保護設定を行う場合、非保護と保護を何度も表示させる必要があります。このときに使うと便利です。



保護領域／ルート（非表示設定）

裏ワザ

UsbBackは管理者がUSB設定時に使うソフトです。
利用者は、使わないのでUsbBackを非表示で入れてあります。
パソコンの表示設定を変更すると管理者だけ表示されるようになります。
（PDFマニュアル「非表示非表示フォルダを表示する」にある“エクスプローラ表示オプションの変更”を参照して下さい）

UsbBackの機能

ダブルクリックで起動するとUSBの安全な取り外しと再挿入をソフト的に行っています。
管理ソフトUsbManageで設定を行う場合、コピーガードが有効になっていると変更ができません。このため、非保護に戻って設定する必要があります。保護領域を表示している場合は、UsbBackを使うか、USBの安全な取り外しを行い、USBを再挿入する必要があります。

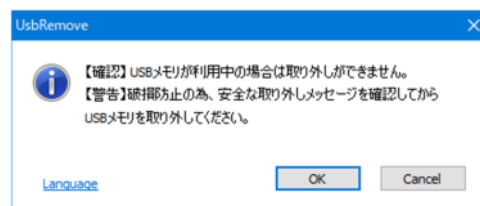
USBの安全な取り外し



UsbRemove.exe

Usb安全な取り外し.exe

Windowsの安全な取り外しを実行します。
USBを選択し右クリック→”取り出し”と同じです。



メリット

- USBは安全な取り外し操作が必要です。この事を明示する為に付属しています。
- 単体で言語切り替えができます。
- USBの破損は書き込み時に起こります。画面で書き込みが終わっても実際に終了する際に1秒程度のタイムラグがあります。メッセージを表示して、この時間を稼いでいます。

場所

- 保護領域/TOOLフォルダ

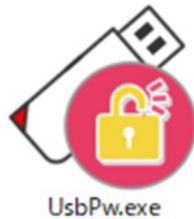
USBが取り外せない

USBが何かのソフトで利用中の場合は、USBの安全な取り外しができません。

また、USBを認識させた直後はセキュリティソフトやWindowsシステムでUSBアクセスが行われるため、USBの安全な取り外しができません。この場合は、表示される[継続]ボタンをクリックする事で取り外しができます。

ユーザーパスワードの変更

.....



ユーザーパスワード変更 UsbPw.exe

USBにユーザーパスワードを設定されている場合は、UsbPwで変更ができます。ユーザーパスワードの変更させたくない場合はUsbPwを削除して下さい。

メリット

- 利用者がユーザーパスワードを変更する事ができます。
- ユーザーパスワードは管理パスワードでも許可されます。

場所

- 保護領域/TOOLフォルダ

ユーザーパスワードを忘れた場合

UsbStartでパスワードが画面が表示された場合、管理パスワードでも許可されます。また、管理ソフトUsbManageでも再設定ができます。

ユーザーパスワードを表示させない

ユーザーパスワードはUsbStartを実行したときに表示されるパスワードです。正しいパスワードを入力しなければコンテンツ表示はできません。ユーザーパスワードを表示させたくない場合は、ユーザーパスワードを削除して下さい。

Data Contents Guard	○
Hyper Contents Guard	○
Hyper Plus	○

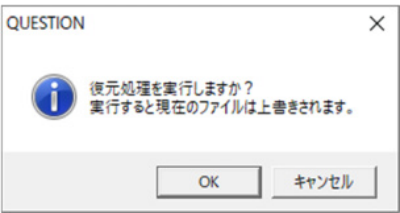
コンテンツのリセット

.....



保護領域復元 UsbReset.exe

保護領域のバックアップと復元



特長

- ・実行すると復元モードになります。
- [キャンセル]ボタンでバックアップモード
- ・保護領域をバックアップします
- ・USBメモリ内にバックアップを作るので空き容量が必要です。

場所

- ・保護領域／TOOLフォルダ

完全なバックアップ

完全なバックアップはUsbSettingで利用者が行う必要があります。
UsbResetはUSBメモリ内にバックアップを作るのでUSBの全体（インデックス領域）が破損した場合は復元ができません。また、UsbResetは空き容量が十分に無い場合は利用ができません。

UsbResetは保護領域内に圧縮バックアップします。
コンテンツがMP4など既に圧縮されている形式の場合は、圧縮率の効率が悪いので空き容量にご注意下さい。
コンテンツが4GBある場合はUSBメモリ容量は8GB以上が必要です。

利用者簡易バックアップ

.....

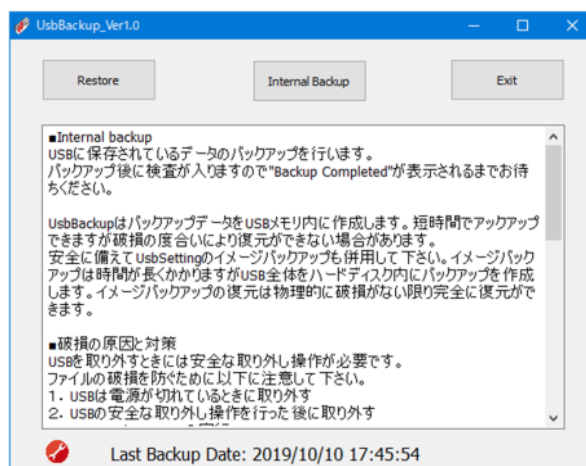


保護領域復元 UsbBackup.exe

保護領域のバックアップと復元

利用者が使う簡易バックアップ機能です。

UsbResetと同じですがバックアップファイルが別に管理されます。



特長

- 実行すると復元モードになります。
- 保護領域をバックアップします
- USBメモリ内にバックアップを作るので空き容量が必要です。

場所

- 保護領域/TOOLフォルダ

10

完全なバックアップ

完全なバックアップはUsbSettingで利用者が行う必要があります。

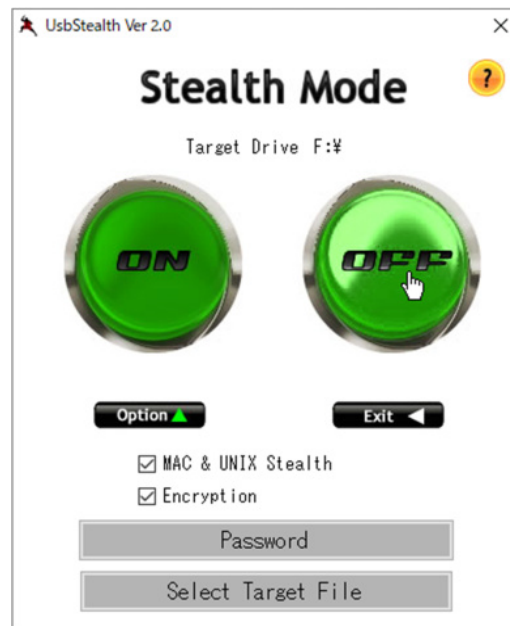
UsbResetはUSBメモリ内にバックアップを作るのでUSBの全体（インデックス領域）が破損した場合は復元できません。また、UsbResetは空き容量が十分に無い場合は利用できません。

一時的にファイルを隠す

.....

USBステルス UsbStealth.exe

保存されているファイルを一時的に見えなくする。



画面スイッチ

□Mac&UNIX Stealthは、保護領域では利用しません。非保護で利用するとMacで有効な非表示化属性が設定されます。ON/OFFどちらでも結構です。

□Encryption(暗号化)

有効にするとファイル名を暗号化します。保護が強化されますので有効にご利用下さい。

USBの貸し出し時に、保存されているファイルを見せたくない場合に便利です。

特長

- ファイルの表示属性を変更してファイルを見えなくします。
- ファイル名を暗号化をすることができます。

ファイル本体を変更しないので動作が高速です。拡張子も暗号化されませんのでファイル名で判断ができません。

• ファイルを見えなくした後でUsbStealthを削除するとより強固に保護ができます。UsbStealthは事前にバックアップして下さい。

場所

- 保護領域／ルート

- Data Contents Guard ○
- Hyper Contents Guard ○
- Hyper Plus ○

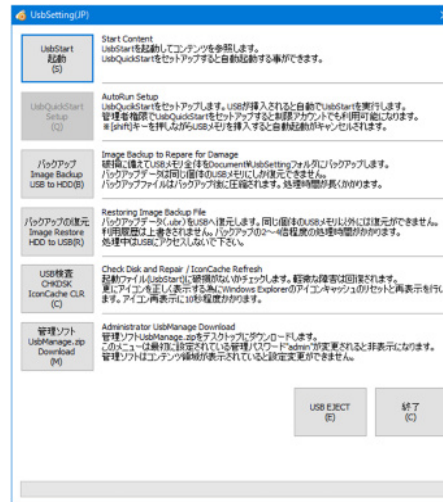
バックアップ・管理ソフトのダウンロード

.....



UsbStart→左側[SETTING]ボタンで起動
または
Setup/UsbSetting.exeを起動する。

USB保守ソフト UsbSetting.exe



以下の機能が利用できます。

- ・自動起動の設定
- ・バックアップ
- ・バックアップの復元
- ・USB破損検査
- ・管理ソフトUsbManageダウンロード

場所

- ・非保護領域/setupフォルダ

12

管理ソフトUsbManage

・UsbManageはUSBに付属しません。保守ソフトUsbSettingのメニューよりダウンロードします。

・自動起動(UsbQuickStart)がセットアップされているPCでは実行ができません。

(UsbQuickStartが設定されている場合は自動でアンインストールされます)

・管理パスワードが設定されるとダウンロードメニューが非表示になります。

・ロストパスワード機能：予め設定されているメールアドレスに管理パスワードをお知らせする機能があります。

・USBメモリがバージョンアップされた場合、対応する管理ソフトバージョンが必要です。古いバージョンの管理ソフトでも設定できますが新規に追加された項目が表示されていません。